

留辺蘂高校のキャリア教育

北海道留辺蘂高等学校

校長 國井 秀彦

1 学校概要

(1) はじめに

留辺蘂高校は、昭和23年北見高等学校（現北見北斗高等学校）の留辺蘂分校として発足した。その後、昭和27年北海道留辺蘂高等学校として独立して以来、「友愛・英知・創造」を校訓に、60年を超える歴史と伝統を刻み、地域に貢献する多くの人材を育成している。

(2) 学校教育目標

○目指す生徒像「社会で自立し共生できる生徒」

- ・学ぶことや働くことの意義を理解し、自ら学び自ら考えることのできる生徒
- ・自己の役割を理解し、自己の役割を果たそうと努力する生徒
- ・基本的な生活習慣を身につけ、健康・安全で活力ある生活を送ることのできる生徒

○目指す学校像「生徒自身が自己の変容（成長）を感じることでできる効果の高い学校」

- ・生徒が失敗や成功を繰り返しながら成長し、夢を叶えることができる学校
- ・教職員が新しい課題に取り組み、力量を高めることができる学校
- ・地域のニーズや期待に応えることができる学校
- ・卒業後も、素晴らしい学校だとあらためて実感し、誇りに思える学校

(3) 系列と特徴等

コミュニケーション力をキーワードとした次の2系列、5グループを設置している。

ア 国際系列

(7) 国際理解グループ…**異文化とのコミュニケーション**

英語によるコミュニケーション能力を伸ばすことはもちろんのこと、異文化授業などを通して、国際感覚を身につける。

(4) 環境グループ …**環境とのコミュニケーション**

自然科学系の学習や地域巡検を通して、地域規模、地球規模の環境問題や環境保全に主体的に関わる能力を身につける。

イ 福祉系列

(7) 福祉グループ …**高齢者・障害者とのコミュニケーション**

社会福祉に関する科目や介護実習などを通して、地域社会福祉の向上を図る能力を身につけ、「介護職員初任者研修」修了を目指す。

(4) 保育グループ …**幼児とのコミュニケーション**

幼児教育に関する科目や保育実習を通して、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力を身につける。

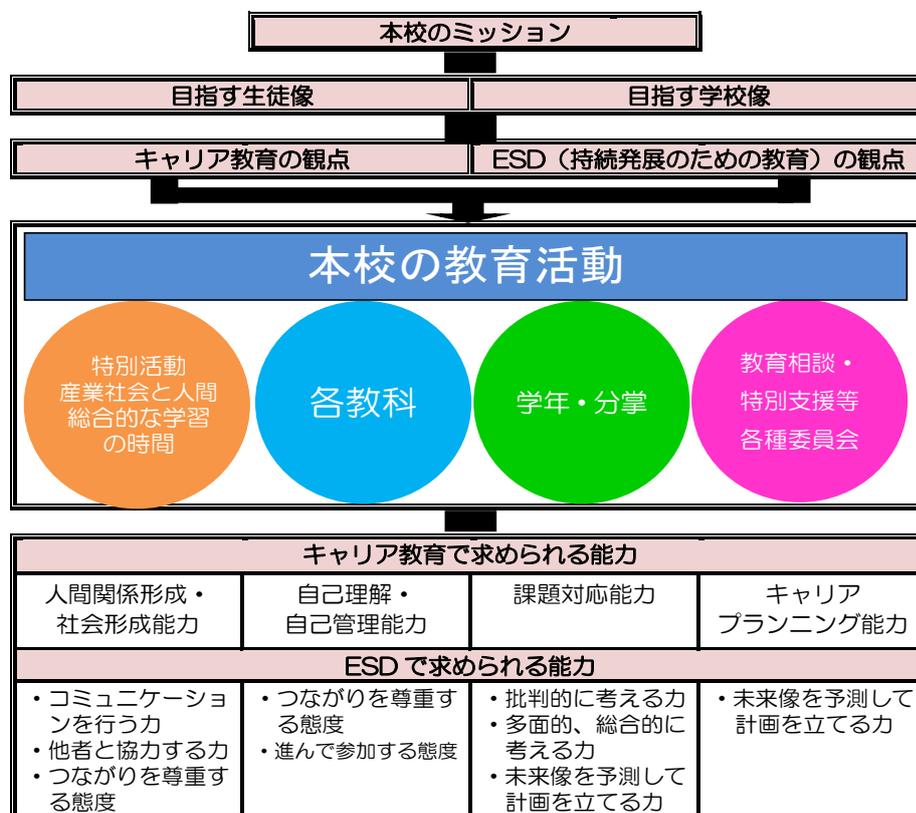
(7) ビジネスグループ…**人とのコミュニケーション**

ビジネスと情報に関する科目や実習を通して各種商業・情報系資格を取得するとともに、地域社会発展に主体的に関わる能力を身につける。

2 本校のキャリア教育

本校では「社会で自立し共生できる生徒」を目指す生徒像とし、キャリア教育とESD(持続発展教育)の両方の観点にもとづく教育活動を展開している。

(1) 全体像



(2) 「産業社会と人間」における取組

＜目 標＞	＜内 容＞
① 自分を見つめ、自己の進路にふさわしい科目を適切に選択させる	私の価値観と職業 職業説明会 出前授業 上級学校バス見学会 科目選択オリエンテーション 科目選択相談会
② 職業・職種についての理解を深め、自分の進路をしっかりと意識させる	自分を知る 傾聴トレーニング 社会人(OB・OG)講話 進路希望別学習 グループ別調べ学習 模擬面接指導 コミュニケーショントレーニング ライフプラン作成

(3) 地域性を素材とした取組

ア 系列横断的取組

(ア) 地元の幼稚園での外国語活動の企画・運営(国際理解グループ×保育グループ)

福祉系列保育グループで学んだ生徒が、英語課題研究に取り組み、保育実習での子どもの接し方やリズム体操等の知識・経験を生かし、幼稚園での外国語活動を企画・運営する。

(イ) 英語を用いた「福祉」に関するスピーチの実施(国際理解グループ×福祉グループ)

福祉系列福祉グループに所属する生徒が、系列横断的に学び身につけた英語プレゼンテーションの能力を生かし、福祉に関するテーマで発表する。

イ 各系列の特色を生かした取組

(7) 国際系列

- ・地元の小学校での外国語活動の企画・運営や北見工業大学の留学生を講師とする国際理解促進に向けた授業の実施（国際グループ）
- ・地域 NPO 法人より講師を招き、町内河川におけるサケ等の川魚の生態・河川環境に関する調査研究やワークショップやグループワーク等、アクティブラーニングの観点を取り入れた授業の実施（環境グループ）

(イ) 福祉系列

- ・地元の幼稚園や保育園と連携した実習の実施や、地元のボランティアグループと連携した絵本や紙芝居の読み聞かせや子ども向け木工教室の開催（保育グループ）
- ・介護職員初任者研修カリキュラムとしての地域の介護施設での社会福祉実習、ならびに地域福祉イベントの運営等（福祉グループ）
- ・自分の暮らす地域について調べてPRするためのポスターづくり(ビジネスグループ)



【川魚・河川環境に関する調査研究】



【絵本や紙芝居の読み聞かせ】

(4) 成果と課題

ア 成果

(7) 教育活動全体を通じたキャリア教育

「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」だけではなく、教科指導など全ての教育活動を通してキャリア教育で求められる能力の育成に計画的・組織的に取り組み、特に生徒のコミュニケーション能力や、表現力、協働で学ぶ力と姿勢が養われている。

(イ) 地域の教育資源を活かした学習機会の充実

地域人材を講師として活用したり、地域の自然や産業、人（老人や子ども）を授業や課題研究のテーマに取り上げたりすることで、教育活動の充実が図られている。

イ 課題

(7) 基礎学力の育成

学習成果発表会等の様子から、学ぶ意欲や姿勢、思考力・判断力を育てる取組の成果は高く評価される一方で、基礎的な学力や知識の定着が課題である。今年度より全学年で週1回基礎学習授業を実施し、改善を図っている。

(イ) 早期離職への対応

総合学科としてキャリア教育を柱に実践しているが、近年社会問題となっている「高卒者の早期離職」の傾向が本校でも見られる。昨年度、ワークルールの講義を取り入れたが、今後も改善に向け、キャリア教育プログラムを見直していく必要がある。